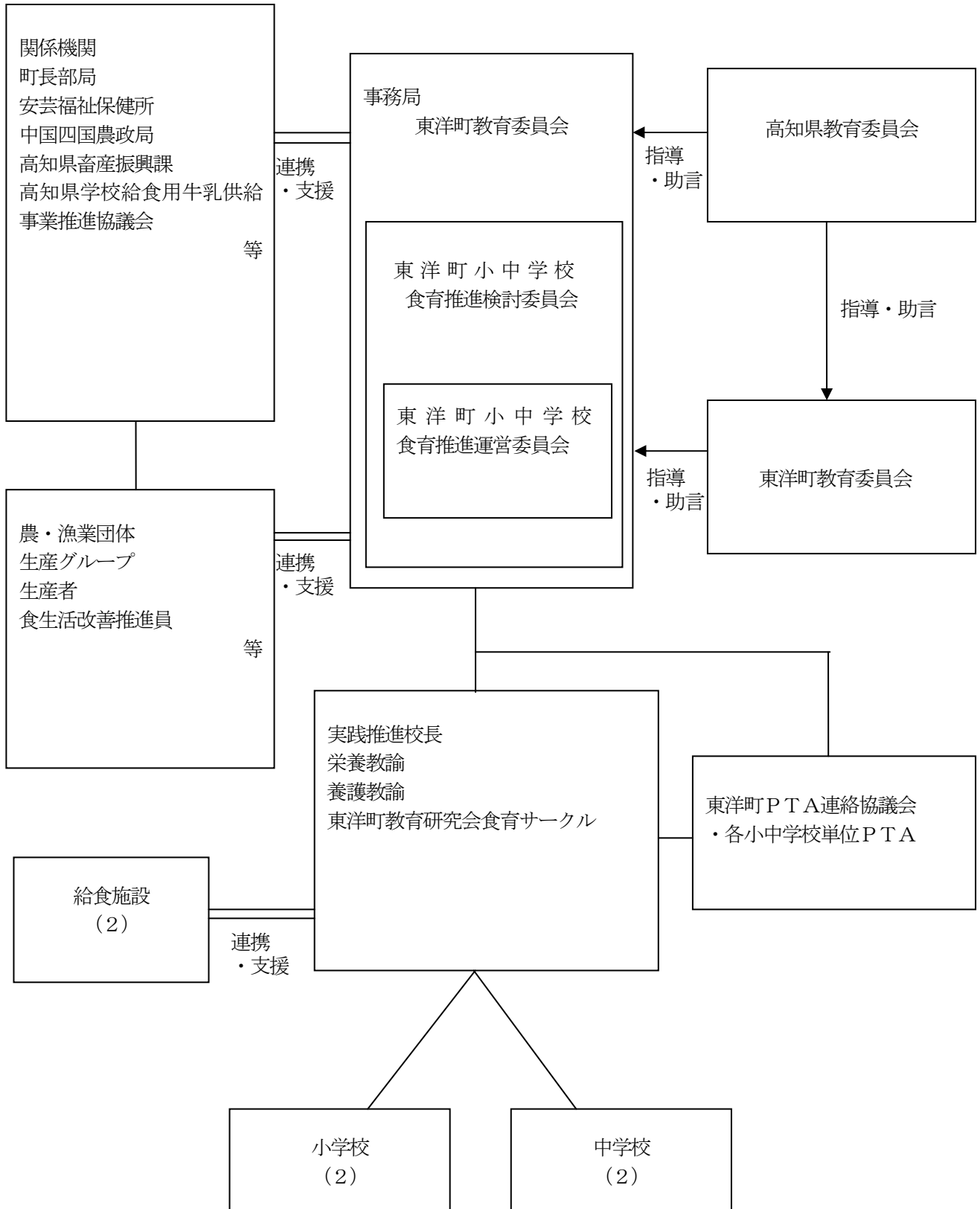


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	高知県
推進地域名	東洋町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 教科等における食に関する指導を充実させるための取組

① 教職員に対する研修

公開授業として授業研究後、研究協議を行い、講演を実施することで、食に関する指導についての理解を教職員が深め、学校教育においてどのように食育推進していけばよいかを考える機会とした。

公開授業 野根小学校5・6年 「バイキングの達人になろう」伊賀大祐(学級担任)、大原佐知(栄養教諭)

指導助言 香南市立赤岡小学校 岩崎 通子 栄養教諭

講師 前南州市立後免野田小学校長 大石 美佐子 氏

演題 「学校教育における食育の推進について」



② 教科等の学習内容と関連した学校給食の献立作成

◇学習内容を学校給食に生かす

- ・1年生 国語科 「サラダでげんき」(元気サラダ)
- ・1・2年生 生活科 なすの収穫体験(韓国風とりのからあげ)
- ・3・4年生 総合 ぼんかんの加工体験(マーマレード、鶏肉のマーマレード煮)
- ・5・6年生 総合 田植え・稲刈り体験(収穫した新米を使用)
- ・特別活動や生活科で育てた野菜を活用 さつまいも、玉ねぎ、ブロッコリー

◇学校給食を教材として活用

- ・5・6年生 家庭科・学級活動 献立を教材として使用
(バランスのよい食事、主食・主菜・副菜のそろった食事等)
- ・2年生 学級活動 献立を教材として使用(バランスのよい食事)

③ 学級担任と栄養教諭とのチーム・ティーチングによる授業研究

◇東洋町教職員研修会

題材名 学級活動「げんきなうんこを出そう」

対象 野根小学校2年生(7名)

指導者 原 孝幸(学級担任)、田中 牧(養護教諭)、大原佐知(栄養教諭)



◇校内授業研究

題材名 保健指導「五感を使って食べよう」

対象 野根小学校5・6年生(9名)

指導者 田中 牧(養護教諭)、大原佐知(栄養教諭)



④ 中間報告会及び講演会の開催(平成21年11月24日)

保護者・地域への啓発を目的として、東洋町教育委員会、東洋町PTA連絡協議会と合同で開催

講師 ほねぶとネット主宰 食育コーディネーター 大村 直己 氏

演題 「いま求められる学校・家庭・地域における食育」

対象 東洋町内の教職員・保護者・地域住民

食育標語・ポスター応募作品の優秀及び入選作品を展示し、優秀作品は表彰式を実施



⑤ 事業報告会及び講演会の開催(平成22年2月8日)

地域教育推進協議会において、事業報告及び講演会の開催

講師 食育を考える地域活動栄養士の会 トマトの会 代表 西森 美恵 氏

講演 「地域とつながる楽しい食育」

内容 食育で身につけた「能力」、早ね、早おき、朝ごはん活動、好き嫌い、子どもや地域に対して私達ができること、子どもを育てる地域等について

テーマ2 学校と家庭・地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

①啓発ポスター、標語の募集及び啓発ポスター、レシピの作成・配布

◇食育標語・ポスター募集（平成21年7月）

対 象 東洋町内の全小中学生

選 考 平成21年9月8日（火） 優秀作品12点、入選作品50点

優秀作品をもとに啓発ポスターを作成し、町内へ掲示

応募作品については、東洋町文化祭にて全作品展示

優秀作品は、中間報告会及び講演会にて表彰

◇「親子でかんたんクッキング！！レシピTOYO」の作成

東洋町教職員研究会 食育サークルと合同作成

朝食レシピ、給食レシピの掲載、調理体験で作ったレシピの活用

配布先・・・管内全児童生徒



②テーブルマナー教室、給食試食会の開催

◇テーブルマナー教室

野根中学校（全校生徒）平成21年10月27日（火）

甲浦中学校（3年生）平成21年12月7日（月）

講 師 ホテル日航高知旭ロイヤル 総料理長 島田 和幸 氏

高知高須病院 管理栄養士 島田 麻美 氏

調理実習を行い、料理の盛り付けなどの仕方を学び、その料理をもとにテーブルマナーについて指導していただいた。



◇給食試食会の開催

- ・甲浦小学校 平成21年6月15日（月）ふれあい参観日 1年生の保護者対象
- ・野根小学校 平成21年6月16日（火）ふれあい参観日 1・2年生の保護者対象
- 17日（水）ふれあい参観日 3～6年生の保護者対象

試食会后、食や健康に関する懇談会を開催（保護者、学校長、栄養教諭、養護教諭）
懇談では、学校給食について、むし歯や歯の健康等について情報交換を行った。



③参観日等を利用した食育講演会の開催

小学校では、成長期に大切なカルシウムについて、毎日給食で飲んでいる牛乳から学び、食生活に対する意識を高めた。中学校においては部活動が盛んであるので、スポーツ栄養の視点から自分の食生活を見直す内容の講演会を実施した。

◇甲浦小学校、野根小学校 平成21年11月10日（火）ふれあい参観日（全校児童、保護者、地域住民）

講 師 高知県畜産振興部畜産振興課 萩原 和也 氏

演 題 「牛さんのはなし」

内 容 牛乳の栄養、乳牛と畜産等について

◇甲浦中学校、野根中学校 平成21年11月12日（木）ふれあい参観日（全校生徒、保護者、地域住民）

講 師 田中整形外科病院 栄養科 科長 大坪 豊寿 氏

演 題 「スポーツ栄養について」

内 容 朝食の大切さ、身体づくり、貧血予防、水分補給のポイント、試合前の食事内容 等について

④肥満傾向児、スポーツ活動（部活動）等の個別指導の充実のための情報収集、提供活動

養護教諭が行う身体測定や健康調べ、文部科学省の新体力テストの実施、骨密度測定及び個別の栄養指導の実施等による情報収集、食育だよりや家庭訪問等による提供活動の実施



⑤各種団体（農協、漁協、食生活改善推進員、女性学級等）の協力体制の構築

生産者や農協、食生活改善推進員など地域住民の方を講師とした体験活動を行うことで、子どもたちはさらに食に関心を持ち、身近に感じることができるようではないか。また、学校・地域が協働することで、学校・家庭・地域全体の食に対する意識が高まるのではないかと考え、協力体制作りを努めた。

⑥開始時と終了時の評価アンケート実施による事業効果の調査及び研究

調査日 第1回 <児童・生徒>平成21年9月2日 <保護者>平成21年9月1日～
第2回 <児童・生徒>平成22年3月13日～ <保護者>平成22年3月13日～

テーマ3 体験活動を通じた地域の産物、産業等の理解を促進するための取組

①地域の団体等の協力による地場産物を使用した調理体験

◇郷土料理～こけらずしを作ろう～（甲浦小学校5年、野根小学校5・6年）

東洋町では毎年、小学5年生を対象に田植え、稲刈り体験を実施し、収穫したお米は学校給食に使用したり、もち米にかえてもちつきを行っている。収穫したお米を味わうことと郷土料理を知ることが目的とし、食生活改善推進員さんを講師に郷土料理であるこけらずし作りに取り組んだ。体験活動を通して、地域の産物や産業、郷土料理についての理解を深めることができた。



◇なすを使った料理を作ろう（野根小学校2年） 講師：土居 恵 氏

地場産物であるなすの収穫体験をした後、なすを使った料理方法を生産者の方から学ぶ。



◇魚をさばこう（野根小学校5・6年） 講師：池本 則子 氏

漁業体験で獲れた魚をさばき、調理方法を学ぶ（いか、ぶり）



②生産者や地域の団体等を指導者とした栽培体験、収穫体験、加工体験等の体験活動

◇川漁体験（野根小学校全校児童） 講師：野根川漁業組合

東洋町にある野根川に行き、モクズガニ、ウナギ、エビなどの昔ながらの漁法について学ぶ川漁体験を実施した。



◇なすの収穫体験（野根小学校1・2年） 講師：土居 幸一 氏

地域で生産されているなすの収穫体験を生産者に協力してもらい実施。なすの栽培方法や品種などについて教えてもらい、収穫したなすは次の日の給食に登場し、児童も収穫した喜びを味わった。



◇ぼんかんの収穫体験（野根小学校全校児童） 講師：小池 巖男 氏

東洋町の特産物であるぼんかんの減農薬栽培や牛を用いた有機栽培について学ぶ。



◇玉ねぎの栽培体験（野根小学校全校児童） 講師：土居 幸一 氏、高谷 徳久 氏

玉ねぎの種類、収穫時期や苗の植え方について学ぶ。

◇さつまいもの加工体験（野根小学校2年） 講師：池本 則子 氏

桶と板を使った昔ながらのいもの洗い方から干しいも作りについて学ぶ。また、加工することで保存性や栄養が増すことについても学習する。



◇漁業体験（野根小学校5・6年） 講師：東洋大敷組合

東洋町の産業の一つである漁業。実際に漁に同行し、定置網による漁法について学習。

◇ぼんかんの加工体験

東洋町の特産物であるぼんかんを利用した家庭でもできる加工方法を学ぶ。



◇田植え・稲刈り体験学習・もちつき

手作業での田植え、鎌を使って手刈り、コンバインでの刈り取りの見学を行う。収穫した米は給食で味わう他、もちつきをして味わう。もちつきでは、さつまいもの加工体験で作った干しいもを使って「かんばのもち」をついた。

③東洋町及び高知県在住の外国人を指導者とした食文化学習

◇韓国料理（野根小学校全校児童） 講師：権 玉姫 氏

身近な外国として、韓国があり、高知県在住の方を招き、チヂミ、ホットクという韓国料理を教えてもらい学習した。



◇フィリピン料理（甲浦小学校6年） 講師：島山ソニア 氏、片岡 アロマ 氏

東洋町には、フィリピン、インドネシア出身の方が在住しており、小学生の保護者にもフィリピン出身者がいる。そこで、他の国の食文化を知ることと国際理解を目的として、フィリピン出身者の方を講師として招き、フィリピン料理のトオーロン、パンセという料理を教えてもらった。授業の中で、児童はフィリピン語で1人1人自己紹介をしたり、食べ物の名前をフィリピン語で教えてもらうなどした。



テーマ1～3に共通する具体的計画

①食育標語・ポスターの募集及び啓発ポスターの作成

東洋町内の全小中学生から食育標語・ポスターを募集し、それをもとに啓発ポスターを作成し、町内へ掲示した。応募作品については、東洋町文化祭で展示を行い地域住民等に取組について知ってもらう機会とした。

②「親子でかんたんクッキング！！レシピTOYO」の作成及び配布

食生活に関する調査アンケートにおいて、食事を作るとき困っていること、情報としてほしいことはという問いに料理のレパートリーという回答が多かったため、レシピ集を作成し、配布することで情報提供することとした。

③食育啓発だよりの作成・配布

それぞれの取組について児童生徒の感想文・写真等と一緒に掲載し、家庭へ配布した。また、今後の予定等日程が決まっているものについてはお知らせをし、講演会等の参加の呼び掛けも行った。

④食生活に関するアンケート調査（児童生徒・保護者）

東洋町内全児童生徒を対象に食生活に関するアンケート調査を実施し、それと合わせて保護者を対象に食生活に関するアンケート調査も実施した。

◇朝食にどんなものを食べる人が多いですか。

<主菜> (1) たまご48.6% (2) 肉27.0% (3) 魚5.4% (4) 食べないことが多い16.2%

<副菜・汁物> (1) 汁物45.0% (2) 野菜の入ったおかず25.0% (3) 食べないことが多い22.5%

◇誰と一緒に朝食を食べることが多いですか。(1) 家族全員27.0%

(2) ひとり8.1% (3) 子どもだけ29.7% (4) 大人もいたが全員ではない35.1%

◇朝食を食べなかった日の体の様子について元気だったという割合が高く、子ども自身が体の様子に気づいていないことが心配であり、課題である。今後継続して指導していく必要がある。

数字で変化のあった事項について

◇郷土料理（こけらずし）についての実習後アンケート調査を児童に実施した結果

○こけらずしの作り方や由来について知っていましたか。(1) はい14.3% (2) いいえ85.7%

○東洋町（高知県）の郷土料理についてもっと知りたいと思いませんか。

(1) はい89.3% (2) いいえ11%

意外と地元の郷土料理の作り方や由来について知らない児童が多かったが、実習後は郷土料理についてもっと知りたいと思う児童の割合が高かった。地域の方を講師に招き、作り方や由来を教してもらい体験することで、郷土料理についての理解も深まり、大切にしようとする気持ちを育てることができた。

◇食生活に関する調査アンケートを児童に実施した結果

○朝食にどんなものを食べる人が多いですか。

<主菜> (1) たまご48.6% (2) 肉27.0% (3) 魚5.4% (4) 食べないことが多い16.2%

<副菜・汁物> (1) 汁物45.0% (2) 野菜の入ったおかず25.0% (3) 食べないことが多い22.5%

○誰と一緒に朝食を食べることが多いですか。(1) 家族全員27.0%

(2) ひとり8.1% (3) 子どもだけ29.7% (4) 大人もいたが全員ではない35.1%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

東洋町教職員研修会や公開授業において、栄養教諭が学級担任等と連携した食に関する指導を行い、他の教職員に参観してもらうことで、事業の実践例として示すことや食に関する指導の共通理解を深めることができた。

また、前南国市立後免野田小学校長 大石 美佐子 氏の講演は、なぜ学校で「食育」なのか？学校、家庭、地域の連携、教育全体で食育をどう取り組んでいくかなどについて、他の教職員にも理解してもらう内容であった。講演を聞くことによって、学校において互いに連携して取り組む体制が整ってきた。

教科等の食に関する指導に栄養教諭が関わることで、児童生徒が体験学習で収穫した野菜や加工したものを給食で使用する、体験学習を通して学んだ食品の生産、マナー、食文化等を給食指導や給食放送の資料とする等、学習

内容を給食に生かすことができた。また、給食における献立や栄養のバランス、食事のとり方等を学習活動に生かすことができた。学習内容と学校給食を関連させた指導を行っていくことで、児童生徒が食を通して学習する機会が増え、食を身近に感じ理解が深まった。「牛さんのはなし」の講演は、その後に予定していた牧場見学等学級での指導に生かすことにより、担任が行う食に関する指導に広がりを持たせることができた。その他にも、食育標語・ポスターを作成することにより、児童生徒に関心を持たせ、自らの食生活を振り返る機会につなげる等、教育活動全体を通して、児童生徒の望ましい食習慣の形成に向けた取組を実施することができた。

テーブルマナー教室、食文化学習等を体験学習に取り入れることで、家庭で児童生徒が食事のマナーの話をしたり、家族といっしょに料理を作ったりする等、自らの生活に生かそうとする意欲や態度が見られた。また、児童生徒が体験学習で学んだことを家庭で実践することで、保護者が家庭での食事を見直すきっかけにもなっている。

生産者や地域団体等の協力による栽培・収穫・加工等の体験活動により、児童が自然や産業への理解を深め、生産にかかわる人々や食べ物への感謝の気持ちを育てることができた。

この事業を通して、今まで関わりを持てていなかった地域の方と一緒に取り組めたところは、これから学校・家庭・地域と連携・協働した食育を推進していくうえで、大きな力となった。

保護者の食生活に関するアンケート調査では、食事を作るとき困っていること、情報としてほしいことについて、料理のレパートリーという回答が多かった。レシピ集を配布することにより、家庭への発信とともに保護者の思いを取組に生かすことができた。

食育標語・ポスターを作成し町内に掲示したことにより、保護者・地域の人の目に止まり、食育を考えるきっかけにもなった。このような児童生徒を対象とした食に関する媒体作りは、啓発活動として効果があった。また啓発だよりの配布は、学校におけるさまざまな食育の実践を家庭・地域へと発信することができ、家庭・地域における食育の取組への理解も深まりつつある。積極的な啓発活動を今後も継続して行っていきたい。

郷土料理の調理体験では、意外と地元の郷土料理の作り方や由来について知らない児童が多く、地域の特色ある食文化が失われつつある現状があった。しかし、実習後は郷土料理についてもっと知りたいと思う児童の割合が高くなった。地域の方を講師に招き、作り方や由来を教えてもらい体験することで、郷土料理についての興味関心が高まり、郷土料理を大切にしようとする気持ちが育った。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

参観日等を利用した食育講演会の開催等、こどもたちの食を考える機会をもったが、保護者の出席者数は少なく、出席している保護者を見ても、毎回同じ保護者である。また、地域の方へも呼びかけてはいるが、関心があり参加する人は限られているように感じる。食育標語・ポスター、啓発だよりの配布、レシピ集等により、食育の取組への理解は深まってきているが、保護者または地域の人自身の関心はまだ高いとはいえない。講演会の開催等の広報活動については、食生活改善推進員と協力して行ってきた。今後も、学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみで食生活への関心が高まっていくように食生活改善推進員等と協力した働きかけを継続して行っていきたい。

保護者が子どもに身につけさせたいこと、普段の食事で困っていることや情報としてほしいことが食生活に関するアンケート調査によって分かり、レシピ集等の資料提供をすることができたが、次年度はこの結果をもとに指導計画等を検討していきたい。

食に関する指導の全体計画をもとに、各学校と地域が連携・協働した学習をさらに充実させていくために、今年度できた組織や体制を中心として、児童生徒の望ましい食習慣を確立するための具体的な手立ての提案や学習内容の調整をしていきたい。

取組の中で、地域の方を講師とした体験学習を多く実施でき、協力体制を築くことができていたので、これを生かして、協力体制を地域全体へと広げていきたい。

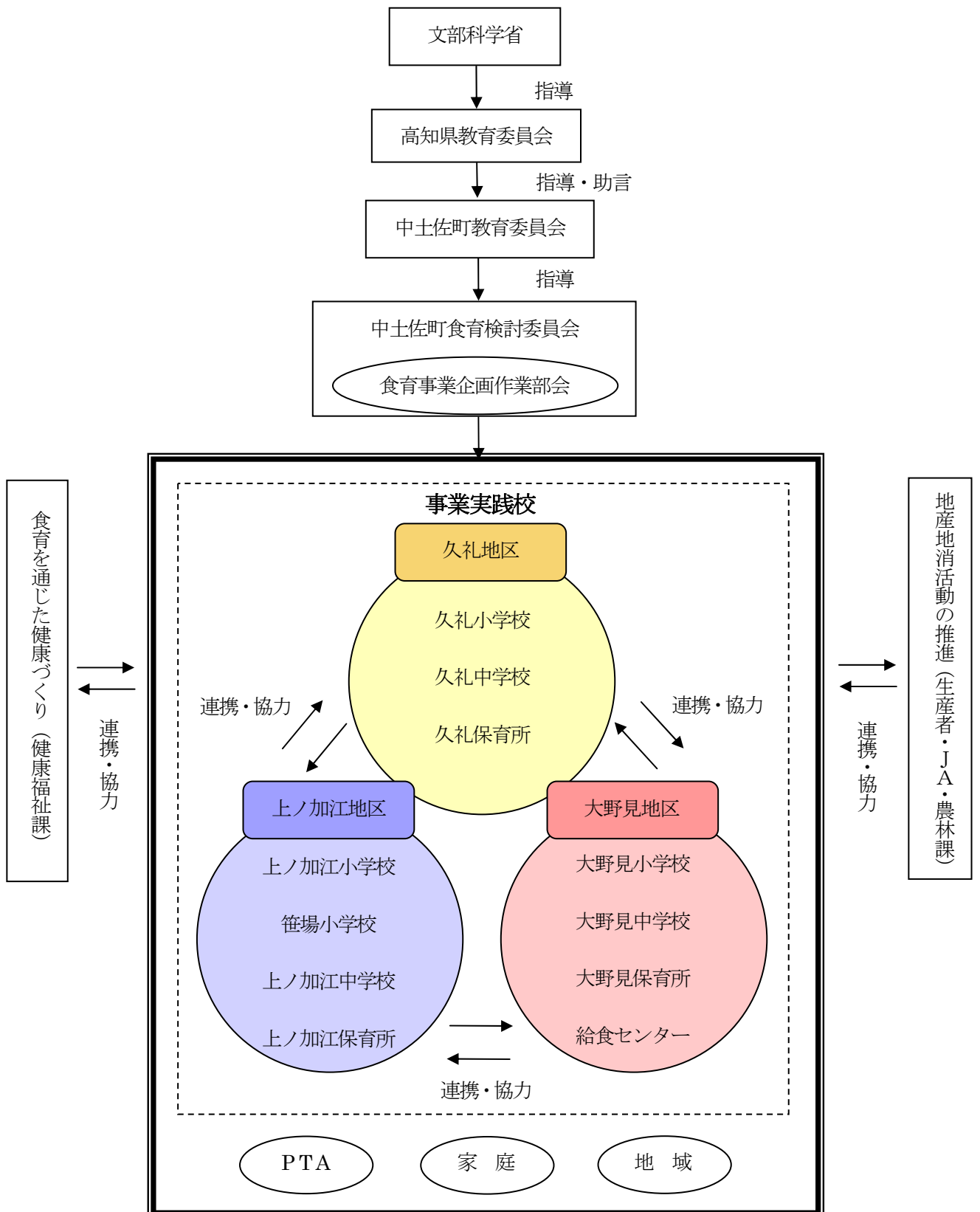
教職員の研修会で授業研究を行うことで、他の教職員にも食に関する指導や取組体制について理解してもらうよい機会となったので、今後も教職員の意識や児童生徒の関心を高め、東洋町全小中学校で食に関する指導の取組が推進されるように、校内研修や町内の教職員研修会における食に関する授業研究の継続的な実施、教職員研究会である食育サークルとの連携した食に関する指導の実施等、今までの取組をさらに充実させ、また発展させていきたい。

取組を継続していくために、小学校・中学校における指導目標や学習内容の系統性はもちろん、教育委員会と学校、学校と家庭・地域等、縦、横の関連、連携等を考えながら全体計画の充実を図っていく必要がある。また、この事業により整ってきた体制をどのように位置づけ、充実させていくかがこれからの課題である。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	高知県
推進地域名	中土佐町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 家庭・地域と連携した食育活動の推進

○生活アンケートの実施・分析

実践中心校である久礼小学校において5月に全児童を対象とした生活アンケートを実施した。(起床時間・就寝時間・朝ごはんの欠食等の生活リズム等についてのアンケート調査)

(生活アンケート結果より) 問、あなたは朝ごはんを食べますか

	平成20年度(5月)		平成21年度(5月)	
	該当数(人数)	構成比(%)	該当数(人数)	構成比(%)
毎日食べる	215	91.1%	217	94.3%
食べない日がある	19	8.1%	11	4.8%
ほとんど食べない	2	0.8%	2	0.9%
合計	236	100%	230	100%

平成20年度の同時期よりも、「食べない日がある」と答えた児童が減っている。若干ではあるが朝ごはん毎日食べる児童が増加していることがわかった。

「食べない日がある」「ほとんど食べない」と答えた児童の食べない理由としては、「食べたくない」「起きるのが遅くて食べる時間がない」が大半であった。また、朝ごはんにみそ汁を食べると答えた児童は27%、野菜を食べると答えた児童は39%であった。このことから朝ごはんは食べてきているが、何を食べているかが課題であることがわかった。この結果をもとに、養護教諭、栄養教諭が肥満傾向の児童の個別指導を実施した。また、集計結果を家庭へ配布した。

○地域との食を通じた交流

久礼中学校における「鰹のたたき実習」

久礼中学校2年生(2クラス)で地域の方を講師に招き「鰹のたたき実習」を実施した。中土佐町久礼地区は昔から「土佐の鰹の一本釣りの町」といわれ鰹の町である。が生徒たちは「鰹のたたき」は食べたことはあっても鰹そのものには、さわったことがない生徒が多い。地域の方の協力をいただき、「鰹のたたき実習」を実施することで、自分たちの住んでいる地域の地場産品への理解を深めるとともに地域のみなさんとの交流を深めることができた。

久礼中学校における「包丁とぎ実習」

久礼中学校では、魚を切る前にまず、切れる包丁を！と地域の方の協力で「包丁とぎ」の実習を行った。

※その他、久礼中学校では総合的な学習「地域の達人に学ぶ」では、「魚料理の達人に学ぶ」班と「地域の食の達人

小学校での体験学習

に学ぶ」班に分かれて学習を行った。

久礼小学校、大野見小学校で、生産者や地域の方を指導者に迎え、農業体験学習(稲作体験)を行っている。児童は自分たちが日頃食べているお米がどのように作られているのかを体験することで、作物を作ることの大変さや生産者の思いを知り、生産者の皆さんに感謝する心を育むことができた。

大野見小学校では、手作りみそをつくり、そのみそを使った調理実習や大野見地区の特産物であるしょうがを使った調理実習を実施し、体験を通じて地域の食材について学ぶことができた。



テーマ2

保・小・中を通じた食に関する指導の充実

- 「保・小・中連絡協議会」と協働した「早寝、早起き、朝ごはん運動」の推進
教職員・保育士対象講演会の実施（参加者 109 名）

実施日：8月22日

講師：早稲田大学人間工学部 前橋 明 教授

内容：「学力低下、体力低下、心の問題に歯止めをかける生活リズム向上戦略」

「早寝、早起き、朝ごはん運動」プラス運動の大切さを科学的データに基づきわかりやすく話していただき、基本的生活習慣の大切さを改めて確認することができた。

- 「朝食づくり教室」の実施

実施日時：10月7日・11月19日

実施日時：1月21日・1月28日

対象：上ノ加江中学校1・2年生

対象：久礼中学校2年生

講師：中土佐町食生活改善推進員

実施内容：朝食の重要性について、講義のあと基本的な和食の朝ごはんの調理実習

メニュー 豆腐とわかめのみそ汁 ・ほうれん草のおひたし ・だし巻き卵・鰯の干物・ごはん

食生活改善推進員の指導で、だし汁のとり方、豆腐の切り方、魚の焼き方等、基本的な調理技術を学ぶことができた。



テーマ3

学校給食を活かした栄養指導の充実

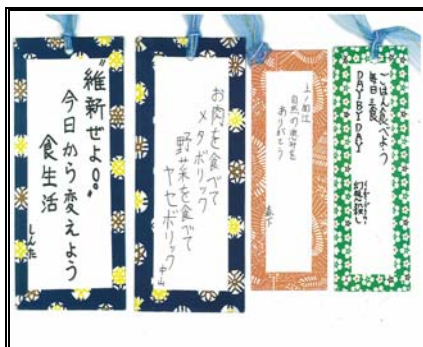
- 大野見小学校で「食育かるた」の作成

昨年度は久礼小学校で地域の食材等を折り込んだ食育かるたを作った。今年度は大野見小学校、給食委員会の児童が中心となり、食育かるたを作成した。



- 上ノ加江中学校で「食育標語の作成」

上ノ加江中学校では、生徒が食育標語をつくり、それを「しおり」にして朝読書の時間に活用した。



○給食献立レシピの作成

中学生対象のアンケート調査により、給食の献立の中で好きな献立（主食、主菜、副菜別）を選び、中土佐町の給食献立レシピ集（A5サイズのカード形式）として作成し、中学3年生に配布した。この献立カードを通して、食べることや料理することを家庭で話し合う機会にし、卒業後自分で料理をする際に活用してほしい、という思いで作成した。



○給食献立でのテーブルマナー教室

久礼中学校において給食の献立を利用し、栄養教諭がコース料理のテーブルマナー教室を実施した。給食をナイフとフォークで食べたり、友達に食事のサービスをしたりすることで、正しく食べることや、食事のマナーを学ぶことができた。また、プロの料理を味わうことで、素材の味を感じ、地域の食材のおいしさを感じることもできた。

○大野見小学校では、1年生に正しいおはしの持ち方を理解させ、実践できるよう支援するために、学校栄養職員が給食時間において、「おはしの正しい持ち方」の指導を行った。

○笹場小学校では、久礼小学の栄養教諭が、4つのお皿のランチョンマットを使って、給食の献立は主食、主菜、副菜がそろっており、バランスのとれた食事であることを指導した。

テーマ1～3に共通する具体的計画

「早寝、早起き、朝ごはん運動」を推進するために、町内3地区の保・小・中連絡協議会を軸として様々な事業を実施した。実践中心校の久礼小学校で実施した生活アンケート調査において、朝食を食べている児童は94.3%であり、昨年度の調査より3.2ポイントが増加していたが、朝6時30分までに起きる児童は45.7%、夜10時までに寝る児童は、73.8%であり、児童の基本的な生活習慣の乱れが懸念される。また、朝食を誰と食べるかという設問では、「ひとりで」と答えた児童が6.0%、「決まっていない」と答えた児童は、28.0%あった。朝食にみそ汁を食べるかという設問では、15.0%の児童が食べないと答えている。

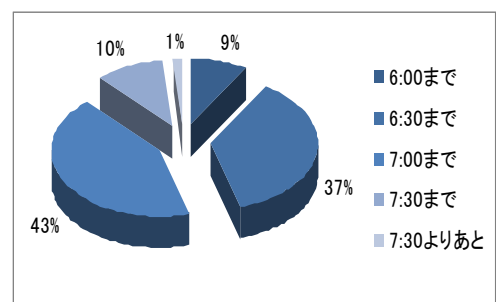
この結果から、朝食摂取の必要性や朝食内容についての理解、また、自分で作る技術を身に付けさせることが重要であると考え、町内の中学校2校で食生活改善推進員と協働し「朝食づくり教室」を実施した。献立は食生活改善推進員のみなさんが日頃、作っているみそ汁を中心とした献立とした。朝食作りに取り組んだ児童生徒は、自分たちで作ることで、朝食の大切さや朝食作りの大変さや楽しさを実感することができた。

数字で変化のあった事項について

久礼小学校生活アンケート集計結果（平成21年5月）

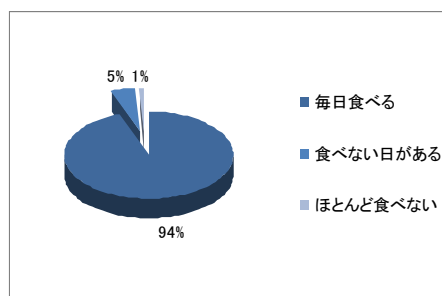
起きる時刻はいつですか

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
6:00 まで	1	1	4	6	3	5	20
6:30 まで	22	12	12	9	10	20	85
7:00 まで	19	15	11	17	20	16	98
7:30 まで	0	4	3	6	4	7	24
7:30 よりあと	0	0	1	2	0	0	3
合計	42	32	31	40	37	48	230



あなたは朝ごはんを食べますか

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
毎日食べる	41	32	28	36	34	46	217
食べない日がある	1	0	3	2	3	2	11
ほとんど食べない	0	0	0	2	0	0	2
合計	42	32	31	40	37	48	230



起床時刻については、「6時30分までに起きる」は45.7%であり、「7時以降に起きる」は11.7%であった。昨年度の同時期の調査との比較では、それぞれの時刻についての変化はあまりみられない。また、就寝時刻については、10時までに寝ている児童は73.8%であり、昨年度と比較すると4.5ポイント増加している。

テレビの1日における視聴時間は、2時間以上見る児童は58.7%で、昨年度より2.7ポイント減少している。テレビゲームを毎日する児童は19.1%で昨年度より7.1ポイント減少し、テレビゲームをする時間は、1時間までが75.0%で昨年度より3.8ポイント増加し、2時間以上する児童は4.9%で8.8ポイント減少している。朝食の摂取状況については、「毎日食べる」は94.3%、「食べない日がある」は4.8%であり、昨年度と比較すると、「毎日食べる」は3.2ポイント増加し、「食べない日がある」は3.3ポイント減少している。

昨年度の調査結果と比較すると、早寝、夜の生活状況、朝食の摂取状況などについて改善傾向が見られた。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

栄養教諭を中核として、学校栄養職員、各校の養護教諭で構成する「食育事業企画作業部会」を立ち上げ、それぞれの所属する学校の現状や問題点を話し合うことで、食育事業に対して共通認識をもつことができ、幅広い事業の展開につなげることができた。

保・小・中連絡協議会と協働して「早寝、早起き、朝ごはん」運動を推進することができた。研修日には教職員、保育士109名が参加し、学力や体力の向上、豊かな心の醸成のためには基本的な生活習慣の確立が大切であることについての共通理解をもつことができた。

地元の方々の協力を得て地域色豊かな体験学習を行うことができた。児童生徒は地元の産物や郷土料理に親しみや愛着を持つことができ、また、地域の協力体制を充実させることができた。

事業の進捗状況については、町の広報に掲載し、地域の方々にも家庭における食育の重要性や学校で取り組んでいる朝食作りの内容等について啓発することができた。

今後の課題(今回の事業により新たにみえた課題など)

久礼小学校生活アンケート結果では、今後も生活習慣の改善に向けて継続して取り組まなければならない状況である。本年度の事業評価についても継続して調査を実施していく。また、学校と家庭が生活アンケートの課題の共有を図ることや、家庭で保護者と子どもが生活習慣の改善に一緒に取り組むことについても継続して実施していく必要がある。

学校給食を活かした、栄養指導の実施については、ランチョンマットや料理カードなどわかりやすい指導媒体を利用することで、栄養教諭や学校栄養職員が在籍していない学校においても給食の時間に、養護教諭等が児童、生徒に対して指導することができる。今後は、栄養教諭、学校栄養職員が中心になって指導内容の充実や栄養指導媒体の使い方等についてさらに研究を行い、町内の学校にさらに活用の啓発を促していきたい。

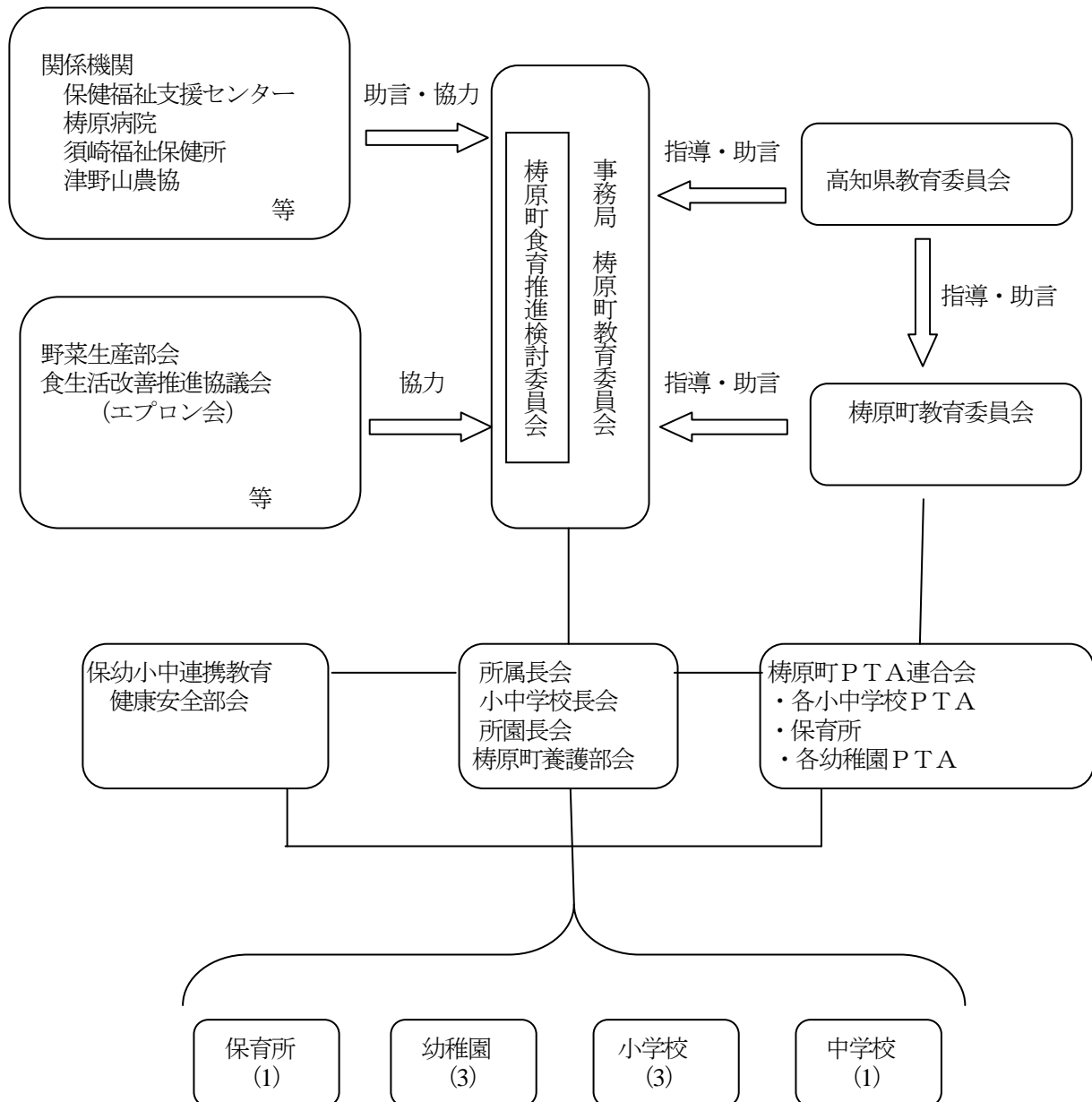
今年度は、様々な機会をとらえ、生産者や食生活改善推進員や地域の方々に食育事業にかかわりをもっていただき協働することができた。昨年度は実践中心校である久礼小学校の活動が大半であったが、今年度は企画作業部会で検討することで町内の小中学校の活動に広げることができた。今後、この組織を存続させ、各校で実施する食育活動の幅を広げるため、町内の学校が協働して食育事業を展開できる計画の立案や情報交換の場としたい。

また、来年度は、地域の特色を活かした食育事業を推進するために、地域の食の達人の掘り起こしを継続し、学校、家庭と地域がより密に活動できるよう組織作りに努めていきたい。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	高知県
推進地域名	梼原町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 規則正しい生活リズムを身につけ、望ましい食習慣を確立するための方策

梶原中学校

生活健康調査の実施【2回】・・・4月、10月

生活リズム調査の実施・・・11月

生活リズムの確立について家庭への啓発・・・学校とPTA連名で実施

生活リズム自己目標チェックの実施・・・夏季休業中

全小学校

健康調査の実施

越知面小：生活点検表により毎月 四万川小：6月、11月、1月 梶原小：5月、6月、9月、1月

その結果を基にした指導、および生活リズム改善に向けての保護者への啓発

保・幼・小・中全校

家庭向け啓発リーフレットの配布（生活リズム改善ガイド）

日頃の児童生徒の習慣を把握し、問題点を保護者に伝えることで保護者の協力を得る。

テーマ2 保・幼・小・中を通じた食に関する指導の充実のための方策

○給食試食会と栄養教諭による講話の実施

学校給食で栄養のバランスや材料の選び方等、普段どのように気を遣ってメニューを考え、調理をしているかを保護者に知ってもらうことで、家庭での食事の大切さをともに考えてもらう契機とする。

若草保育所 保護者対象給食試食会並びに栄養教諭による講話

7月7日（火） 「食事の大切さ」

9月11日（金） 「子どものおやつについて」

1月15日（金） 「食品添加物について」

梶原幼稚園 保護者対象給食試食会並びに栄養教諭による講話

6月24日（水）、6月30日（火）、7月3日（金）（組別に日程を設定）

通信によるお知らせ

越知面幼稚園 米作りや野菜作り体験

四万川幼稚園 保護者と一緒の給食試食会と栄養教諭による講話

四万川小学校 保護者対象試食会並びに栄養教諭による講話

7月10日（土） 「食事と健康について」

越知面小学校 保護者対象給食試食会と栄養教諭による講話

11月13日（金） 「バランスのよい食事と健康」

※講演は保護者と3・4年生を対象とする。

梶原小学校 保護者対象給食試食会並びに栄養教諭による講話

10月1日（木） 「食事と健康について」

○米作り体験学習の実施

全小学校 5年生による米作り体験学習

3小学校の5年生合同による通学合宿での米作り体験



梶原中学校 米作りを通じた体験学習の実施（中学校1年生）
千枚田オーナー制度をやっている神在居地区での一般参加者に混じった米作り体験



- 町内PTAと連携した食育講演会の実施 「食育と健全育成」講師：香川県綾上中学校長 竹下和男先生
- ランチクロス（三色食品群分類表）の配布
児童生徒への食育指導や保護者への啓発活動で使用した食品群分類表を家庭でも活用したいという要望の声があり、ミニ教材の作成配布を行った。

テーマ3 食への関心を持たせ、基本的な調理技術を身につけるための方策

○学校の教育活動において、地域の方々から学ぶ郷土料理作りやお弁当作り
梶原中学校

①料理教室の実施

- 目的 地域に昔から伝わる食材や料理について、地域の方から教えていただき調理の方法を知る。あわせて、自分の弁当作りにつなげていく。
- 日時 平成21年8月6日（木） 9：00～12：00
- 場所 梶原中学校家庭科室
- 参加者 家庭科・パソコン部
- 内容 郷土の食材を活用した郷土料理やバランスのとれた献立でお弁当を作る。



②敬老会行事の料理作り

- 目的 梶原中学校生徒会活動の一環として、敬老祝賀会に参加をして地域の高齢者の方々の長寿を祝い、尊敬と感謝の気持ちを伝えるとともに、地域の方々との交流を深める。
- 日時 平成21年9月13日（日）
7：00～12：00
- 場所 梶原町西区生涯学習館
- 対象 梶原中学校生徒会等
- 協力者 西区の地域の方々
- 内容 地域の高齢者の皆さんの長寿をお祝いするための料理作りに参加し、皿鉢に盛る地域に伝わる料理を教えていただく。



越知面小学校 5・6年 お弁当作り

目的 日頃、家族が作ってくれるお弁当に感謝の気持ちを持ち、お弁当作りに関心を持つ。
お弁当作りにおける栄養のバランス、見た目のよさなどを理解し
今後に役立てる。

学習計画 10月19日 10:20~11:05
お弁当メニューの話し合い

10月26日 11:20~12:00

お弁当作り エプロン会の方々による指導

学習内容 栄養教諭によるお弁当のおかずにあふさわしい食品や料理の組み合わせ、栄養バランスについての学習とお弁当作りのための彩りや調理方法の学習



樺原小学校 6年生 お弁当作り

目的 栄養バランスのよいお弁当作りの学習を通して、食に対する関心を高め、バランスを考えて食事を選択・調理することができる能力を養う。

日時 10月13日(火) 10:40~12:20

学習内容 6年生家庭科 単元「まかせてね 今日のごはん」における食に関する指導及びお弁当作りの調理実習



○栽培活動や調理活動を通して食べものや調理に関心を持たせる取組

越知面幼稚園 野菜の収穫とおやつ作り、収穫した米での餅つき大会など、地域の方々との交流による食育の推進を図る取組



四万川幼稚園 親子で料理することにより、親子のふれあいを大切にし、食べ物に関心を持たせる取組

樺原幼稚園 子どもたちが栽培に関わった野菜でのおやつ作りを通して、食べ物に興味関心を持たせる取組

テーマ1～3に共通する具体的計画

テーマ1から3に関する実践を「食育実践リーフレット」にまとめて家庭に配布し、保護者に対する啓発を行った。また、高岡地区学校給食研究会で成果発表を行うことを通して、町として食育の推進が図られるよう取り組んだ。

樺原町の地域色や高等学校との連携も視野に入れた取組とした。全国棚田百選に選定されている千枚田での米作りや、地区敬老会行事と兼ねた皿鉢作りは地域の文化そのものであり、児童生徒に昔ながらの食生活を体感させる

絶好の機会となった。また、栲原高校に招待された幼稚園児の茶つき体験なども地産地消を繰り返してきた地域の食生活スタイルを考える契機となっている。

様々な実践を通して、伝統文化の中に食の季節性や行事性等の要素があり、それらは、子どもたちに継承していく必要があることを認識することとなった。

今後の課題解決のために

- ① 保・幼・小・中における発達段階に応じた地産地消を利用した食育活動を推進していく。
- ② 係機関との協体制により、根気よく食育改善を呼びかける。
- ③ 関心の薄い保護者への食育講演会や生活リズム改善ガイドを配布した集団への啓発といったことを進める。
- ④ 地産地消が野菜を多く食することにつながるので、農協や商工会といった地産地消に取り組んでいる関係機関との連携を進める。

数字で変化のあった事項について

○生活リズム（小学校） 就寝時刻 上級生になるにしたがって就寝時刻が遅くなる傾向にあるが、22時半以降に起きていた児童はいない。

10時半就寝（5、6年生で30%から20%に改善）

朝食摂取率 朝食は100%とっている。ただ、バランス的にみて十分でない児童もみられたので、指導を行った。

○弁当作り（小学校5・6年生） 91%が親に作ってもらっているが、弁当作り教室の後では33%の児童が、弁当作りの手伝いをするようになり、ほとんどの児童が親への感謝の気持ちをもつようになって残さず弁当を食べるようになった。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

中学校においては、生徒の生活健康調査、生活リズム調査を実施して啓発をすることにより、望ましい生活習慣を身につけさせるのは家庭の役割という意識がでてきた。また、全町の小中学校において、児童生徒の生活習慣実態調査の実施や各校において生活改善に向けての継続した取り組みを行うことができた。

試食会を実施して、保護者と子どもと一緒に給食を食べることにより、保護者が食事の量やマナーについても考える機会となった。また、保育園・幼稚園・小学校の実態に合わせて、栄養教諭による講話を行うことにより生活リズムや望ましい食習慣について、保護者が考えるようになった。普段保護者は配布された献立表により子どもたちの食べ物を知ることになるが、今回親と子どもと一緒に給食を食べたことは、現場での教育者の指導を理解することにつながり、教育者と保護者の視点が近づいてきたように思う。

子どもたちに基本的な調理技術を身に付けさせるために、保・幼・小・中それぞれに発達段階に応じた体験活動を行うことができた。このように保育園や幼稚園から中学校まで共通のテーマに基づいて食育を推進することで、教職員の間で連携を持ちながら食育の取組を継続しようとする意識ができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

様々な調査結果や取組を通して、規則正しい生活リズムを身につけ、望ましい食習慣の確立ができていた児童・生徒は学習面・精神面ともに安定しているということが見えてきた。望ましい生活について、児童・生徒には知識があっても実践できていない者も多くみられるので、いかに実践に結びつけるのが課題である。

子どもたちの学校生活が豊かで楽しく健康であるためには、家庭生活において保護者の協力が欠かせない。しかし生活リズムや食習慣への関心の薄い保護者がいるため、今後も保護者に向けての啓発の継続が必要である。

また、過去には兼業農家である家々において野菜作りは実践されていたが、栲原といえども保護者が野菜作りに携わる人は少なく、教育現場においての体験学習が非常に大切になってきている。そして、その体験学習は地域の人たちによる支援や指導の協力が欠かせないものとなっている。

事業終了後は、事業の成果物を通して保護者や地域への啓発活動の継続、事業の成果を食育推進計画に取り入れていくこと、福祉関係の部署などとも協力して食育を推進していくこと等に取り組んでいきたい。